



和歌山県林業試験場の最新情報

「やまびこ通信」



■ 花粉症対策苗の増産強化に向けて

県では本年度から5か年の計画で森林・林業“新”総合戦略に取り組んでいきます。ICTなど新技術を活用した「スマート林業」を推進し、「林業の担い手の確保・育成」を図り、「適切な森林管理」のもとで、持続的な森林・林業・木材産業を目指します。

「適切な森林管理」では花粉の少ない森林づくりを推進していきます。そのため試験場では花粉の飛散量が少ない花粉症対策苗を増産するための生産施設として「閉鎖型採種園」を本年度新たに整備し、効率的かつ品質の高い少花粉優良品種の種子増産に着手する計画です。

「閉鎖型採種園」とは、わかりやすく言い換えるとビニールハウスにより外部からの飛来花粉やカメムシの侵入を防ぎ、優良母樹同士で確実な交配を行う種子生産施設の総称です。また施設内では母樹を地植えするのではなく、みかんコンテナを鉢として使用する計画です。果樹栽培分野で実用化されている根圏制御栽培法を取り入れ、土量を制限するとともに、灌水や施肥条件を最適化することで、樹体の矮小化(木の大きさを小さく抑える)、着花促進を図ります。これは、先進的な取り組みを進めている愛知県や静岡県の実験研究機関を視察する中、和歌山県としても研究・実証していく価値が高いと判断した手法です。既に整備しているミニチュア採種園の再整備を図りながら、この閉鎖型採種園を加えることで、より効率的な種子の増産体制を図っていくこととしています。



愛知県森林・林業技術センターの閉鎖型採種園

本年度も当試験場へのご支援、ご協力よろしく申し上げます。(場長 大塚 康史)

令和4年度 農林水産業競争力アップ技術開発事業の新規2課題がスタート！

■クマノザクラの保全と活用に向けた雑種判定と効率的育成手法の開発 (R4~R6)

クマノザクラは、紀伊半島南部で発見された野生種です。三月中旬に見頃を迎え、静とした美しい花を咲かせることから、新たな観光資源としての活用が期待されています。しかし、染井吉野などの植栽されたサクラ類との交雑が確認されるなど、種子での増殖ではクマノザクラという種の存続を脅かす恐れがあります。

そこで実生苗木の遺伝子を分析して、純粋なクマノザクラか否か、園芸品種の遺伝子が含まれていないかなど、雑種判定技術の確立を目指します。また、効率の良い育成条件の解明も併せて行っていきます。(松久保)



タイプ木標本木 (古座川町)

■ヒサカキの新たな病害「枝葉枯れ症状」防除技術の早期確立 (R4~R6)

本県のヒサカキは国内有数の生産を誇り、関西市場で仏花・供花として多くの需要があります。しかし、近年栽培地にてヒサカキの枝葉が枯れる被害が県内にて急速に広がっています。

新種の病害である可能性が高く、罹病すると樹勢が衰え、枯死に至ることから枝葉の収量が減り、産地の維持が懸念されています。

登録農薬がなく、有効な防除対策もないことから、試験場では、特性の異なる複数の殺菌剤の農薬登録へ向けた試験を



罹病したヒサカキの枝葉

実施し、防除技術の確立を早急に行います。

(田中)

令和4年度 研究スタッフの紹介

■場長・副場長

場 長 大塚 康史 副場長 東山 貢

■経営環境部

糸川 隆康 : 部 長
法眼 利幸 : 獣害・病虫害対策
小田 奈津子 : 病虫害対策
松久保 康輔 : 造林・育林
鈴木 大輔 : 研究業務の補助
大谷 美穂 : 造林・育林
(育休: 山下 由美子)
<中辺路試験地>
松本 康久 : 育種・種苗生産
斉藤 雅一 : 育種・種苗生産
城戸 杉生 : 種苗生産

【トピックス -研究スタッフ紹介-】

今年度新規採用されました松久保康輔（写真右）です。クマノザクラの保全と活用に向けて、「クマノザクラらしさ」に関わる遺伝子の分析研究を担当しています。樹木にかかわる仕事は初めてですので、職場内外から見聞きして様々なことを学んでいきたいと思っております。よろしくお願いたします。

同じく新規採用されました鈴木大輔（左）です。今は、わからないことばかりで手探りなことも多いですが、より良い研究補助ができるよう知識や技術の向上に努めます。よろしくお願いたします。



■木材利用部

東山 貢 : 副場長（木材利用部長）
坂本 淳 : 庶務担当 林業普及指導員
山裾 伸浩 : 木材強度・木質バイオマス
一岡 直道 : 木材加工・保存・乾燥

【トピックス -研究の状況-】

大径材の活用を目的として、心去り平角材及び接着重ね梁の研究に取り組んでいます。

そのうち、接着重ね梁の研究では種々の積層パターンで構成される試験体を作製し、曲げ試験を実施したところ、十分な曲げ強度性能を有していることを確認しました。

今後、新たな積層パターンによる試験体を作製し、さらなるデータの取得を進めることで、強度的信頼性の優れた接着重ね梁を開発したいと考えています。（山裾）



■特用林産部

坂口 和昭 : 部 長
田中 作治 : 花木の栽培管理、紀州備長炭
杉本 小夜 : 山菜、きのこ、木の実
中谷 俊彦 : 研究業務の補助

～ 中辺路試験地だより ～

○秀衡桜の苗木 田辺市から平泉町に寄贈

田辺市は岩手県平泉町と姉妹都市提携を締結しており、奥州藤原家3代当主藤原秀衡公にゆかりのある「秀衡桜」の苗木を寄贈する旨、苗木の育成依頼がありました。

試験場では、「秀衡桜」のクローン苗を育成するため、接ぎ木増殖を試みました。

「秀衡桜」は中辺路町野中の熊野古道沿いにあり、世界遺産のバッファゾーンにあることから、田辺市職員の立ち会いの下、令和3年1月に穂木をとり接ぎ木に供しました。

接ぎ木は活着が良く、1年後には50cmを超える苗木に生長したことから、田辺市に返したところ平泉町に贈られました。

平泉町では令和4年2月18日に関係者により7月に開館予定の学習交流施設内に記念植樹されたとのことです。



（関係記事：AGARA紀伊民報 2022年3月16日「千年の時を超えゆかりの地へ 田辺市が平泉に秀衡桜贈る」（城戸）

編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL : 0739-47-2468 FAX : 0739-47-4116

※『やまびこ通信』は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。